

社員の和を大切にしながら迎えた創立 50 周年 労働環境改善に力を注ぐ

成田空港のほど近くに本社を構え、航空貨物輸送を中心に事業を展開してきた神谷運送店。昨年創立 50 周年を迎え、さらなる飛躍に向けて「ドライバーが働きやすい環境整備」を強化していく。



大型トラックなどによる航空貨物輸送を中心に手がける同社

■信頼関係深化・定着率向上の決め手となる 季節毎の「社内イベント」を毎年開催

(有)神谷運送店（神谷修一代表取締役）は、昭和 43 年に神谷社長の父親である先代社長によって設立された。神谷運送店が本社を構える成田市川上は、現在も畑作農業が盛んな地域である。設立当時同社では、地域で生産された農作物の輸送を中心に事業を展開していたという。しかし、先代社長が次々に新たな荷主を開拓してきたこともあり、次第に鉄材や薬品、乳製品、雑貨など様々なものを運ぶようになっていった。

同社にとっては、昭和 53 年の新東京国際空港（現・成田国際空港）開港が大きな転機となった。同社は、開港を機に航空貨物輸送に乗り出したほか、倉庫業にも参入した。その当時、日本製の電化製品や精密機械が世界各地で人気だったこともあり、同社の倉庫で保管していたカメラやゲーム機器などを空港までトラックで輸送し、航空機に積載して海外へと輸出していた。空港に荷物を運び入れるにあたって、同社では通関手続き迅速化の観点から「車上通関制度」をいち早く導入した。これは、荷物をトラックの荷台に積んだ状態で通関を受け、航空機まで輸送を行う仕組み。通関の際の荷物の積卸作業が不要となるため、輸送効率化が図られることになった。なお、現在では同社の輸送のうち 3 割程度を航空貨物が占めているが、産業構造の変化に伴い、現在では外国からの輸入貨物輸送の割合が輸出よりも多くなって

いるという。

さて、90 年代に入ってからそれまでのバブル景気が崩壊し、我が国は景気後退の局面を迎えた。それとともに同社の業績も徐々に悪化していった。そうした中、平成 9 年に先代社長から社長の座を受け継ぎ、神谷社長は 38 歳で同社の社長に就任した。神谷社長は、社長就任前は同社の専務として社内実務全般を担っていたが、経営的に厳しい局面でのバトンタッチということもあり、社長としての責任の重さに苦しんだという。しかし、神谷社長はまだ若かったこともあり、持ち前のパワフルさで苦境を乗り越えていった。

さて、社長に就任して 22 年が過ぎた神谷社長に、経営面で大事にしてきたことを伺うと、先代社長の時代から積み重ねてきた仕事のやり方を壊さずに守り続けてきたことだと話す。

「当社のような規模の大きくない運送事業者において、円滑に業務を進めていくためには、ドライバーとの信頼関係構築が最も大事だと考えています。ドライバーが毎日仕事を進めていく中で、苦労や辛さ



神谷 修一 代表取締役



社長就任以降、神谷社長は積極的に社員と対話を重ねるようにしているという



薬品（写真）や乳製品、雑貨など、同社の輸送する貨物は実に多彩だ



社員の皆さんと記念撮影。日頃からの社内のアットホームな雰囲気が伺える

を感じることもあると思います。ドライバーの仕事への思いを共有し、その思いに応え、ドライバーとの信頼関係を深めていくことにより、当社をより良い職場にしていきたいと考えています」（神谷社長）

そうした思いから、神谷社長は社長就任後、率先してドライバーの話に耳を傾けるとともに、ドライバーと積極的に話し合うようにしているという。

ところで、同社では毎年様々な社内イベントを開催している。1月4日には社員とともに香取神宮（香取市）で安全祈願を行い、その後本社事務所に隣接する神谷社長の自宅にドライバーたちを招いて「新年会」を開催している。春には桜を楽しむ「花見の会」、夏にはドライバーの家族たちも招いての「バーベキュー」、そして秋には「社員旅行」（3年に1度）を実施するほか、年末には「忘年会」も実施している。神谷社長の「もっと社員を大切にしたい」という思いから開催される多彩な社内イベントを通じて、同社では社員のチームワークが一層高まっているという。

「当社では、先代社長の時代からどこか家庭的な雰囲気がありました。その理由として、一つには社内イベントの開催もありますが、新入社員採用に当たって求人募集を行わず、縁故による採用を中心に行っていることもあるかもしれません。ドライバーや知人の紹介で入社してくる新入社員は、当社のようなアットホームな雰囲気に馴染みやすく、まるで家族の一員であるかのように一生懸命頑張ってくれます。そ

うしたこともあり、当社の社員定着率は高くなっています」（同）

一方で、トラックドライバーの「働き方改革」が叫ばれている昨今、同社においてもドライバーの労働環境改善が課題になっているという。

「航空貨物輸送においては、海外から荷物を運んでくる航空機の延着などで待機時間が延びることも少なくなく、いかに拘束時間を削減していくかが課題となっています。当社ではその対策の一つとして、配車の際の『ルールブック』を作成しようとしています。拘束時間削減の実現に当たっては、全社員の協力が必要となります。『ルールブック』では、平易な表現を用い、できるだけ箇条書きにするなど、取り組む側の『心の壁』を取り払い、社員みんなが拘束時間削減に向けて取り組めるような内容にしようと考えています」（同）

最後に、今後に向けた抱負を神谷社長に伺うと、社員同士の和を大切にしながら、会社の繁栄に結び付けていきたいと語った。

「仕事をしていくにあたっては、『誰と』『どんな』仕事をするかがカギになってくると思います。信頼できる仲間たちに囲まれながら、やりがいのある仕事をする事ができれば、『この会社で仕事を続けていこう』という強い気持ちを持つことができます。当社としては、『働き方改革』への対応も着実に進めながら、社員にとって働きやすい環境の整備に継続して取り組んでいきたいと考えています」（同）

ホットにゆーす

野球が趣味の神谷社長 還暦祝いに社員が「屋形船クルージング」を贈呈

神谷社長の趣味は、中学生の頃から続けている「野球」である。現在では、阪神甲子園球場（兵庫県西宮市）で開催されている「全国ロータリークラブ野球大会」に毎年出場し、一塁手として活躍を続けている。

さて、同社は昨年設立50周年を迎えたのを機に、社員の家族などを招いての記念パーティーを行った。その際に、社員からの日頃の感謝の気持ちとして神谷社長夫妻に贈られたのは、屋形船をチャーターしてのクルージング。今年の新年会翌日の1月5日に開催されたクルージングでは夫妻の還暦祝いも行われ、夫妻にとって忘れることのできない「大切な思い出」となった。



昨年開催した創立50周年記念祝賀会。社員の家族なども迎えて盛大に開催された

企業プロフィール

有限会社神谷運送店

代表取締役 神谷 修一

千葉県成田市川上 245-984

従業員 35人（ドライバー 30人）

台数 29台